

令和元年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成30年度実施事業)

事業No.1

事業の名称 (活用した交付金)	移住促進拠点活用事業 (地方創生推進交付金)	事業期間	平成29～ 令和元年度	事業費(補助率)	5,170,593円(1/2補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	市長公室秘書広報課、ふるさと創生課						
事業概要	緩やかな人口減少が続く本市において移住・定住促進は地域活性化に必要な不可欠の要素である。旧城下町の一角にある古民家を改装し、平成29年度に地方創生拠点整備交付金を活用して整備した移住・定住促進拠点『『離れ』にのうみ』を活用して、施設及びその周辺の魅力が伝わる移住体験ツアーやセミナー、本市に古くから伝わる郷土食を使ったケータリングサービスなどの開発に地元住民に積極的に参画いただき、取り組む。市外からの移住希望者や移住者だけではなく、これまで、本市の魅力に気が付かず、市外での生活に方向性が向いていた特に若者が、本市に誇りをもち、今後も住み続けたいと思えるシビックプライドを持つことで、若者世代にとって、「選ばれるまち」「住み続けたいまち」を目指す。						
取組内容	移住促進拠点として整備を行った亀岡市移住・定住促進施設「離れ」にのうみの活用を図るためのソフト事業として、完成記念イベントの実施、施設内覧会の開催、当該施設も含めた旧城下町の活性化のための体験メニュー開発、マップ作成(日本語・英語)、動画作成、ケータリングメニュー開発、施設パンフレットの作成を行った。 また、実際に本市に移住し就業・子育て中の市民にスポットをあて取材、市が行う移住・定住促進事業や施設の紹介とあわせて長編映像「もう一つの京都、亀岡に暮らす～亀岡で夢を叶えた二人の移住者～」を制作した。						
取組の成果	完成記念イベント及び内覧会には延べ900名程度の来場者があり、施設の周知を十分に図ることができた。また、地域活性化に向けて3店舗と協力してのケータリングメニュー開発を行うことができたほか、作成したマップ等は配架頂いている店舗、また、観光客等にも大変好評であり、施設のPRにつながった他、旧城下町の観光に効果があったと考える。 また、制作した長編映像について、市HP、SNS、YouTubeで発信するとともに、市役所内で多く人が集まるロビーでの繰り返し上映、移住・定住希望相談者への紹介など、施策の積極的な周知拡散に活用できた。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値(H31.3)	実績値(H31.3)	達成／不達成	評価(A～C)	事業の今後について
	KPI①	亀岡市の転出入の増減幅縮小(直近5年間合計)	△1,475人 (転出が転入を1,475人超過)	△2,064人	不達成	【B:地方創生に効果があった。】 施設のオープンが遅れたこともあり指標は不達成となっているが、移住定住促進施策として一定の効果はあった。	【事業を継続】 施設周知に努め、宿泊者数の増大に努めるとともに、移住体験ツアーなどの事業を通じて移住者数の増大にも努める。
	KPI②	本施設の移住相談窓口来訪者のうち、本市への移住決定者	3人	2人	不達成		
	KPI③	本施設の宿泊者数	450人	265人	不達成		
	KPI④						
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)							

事業の取組、成果に関する写真等



離れ「にのうみ」外観



離れ「にのうみ」内装



「もう一つの京都、亀岡で暮らす」
移住者紹介①



施設紹介パンフレット



「もう一つの京都、亀岡で暮らす」
移住者紹介②

令和元年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成30年度実施事業)

事業No.2

事業の名称 (活用した交付金)	「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクト (地方創生推進交付金)		事業期間	平成28～ 30年度	事業費(補助率)	13,650,323円(1/2補助)	
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	まちづくり推進部都市計画課、都市整備課、土木管理課						
事業概要	亀岡市内に息づく花や緑などの魅力を体感いただくため、市民・民間が主役の緑のまちづくりを進める「ガーデン・ミュージアム」と、豊かな自然環境に恵まれた地域の生物保全や地域資源を活かしたまちづくりを進める「ネイチャー・ミュージアム」の2つを融合させ、亀岡まるごとミュージアム(博物館)として位置付け、亀岡の来訪者へのおもてなしの気持ちを表すとともに、地域活性化、観光振興を図り、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げる。						
取組内容	「ウェルカムガーデン整備事業」として、市外から亀岡を訪れる方を気持ちよく迎え、亀岡の魅力を体感していただくためにスポットガーデンの整備(市道安町雑水川線スポット緑地)や維持管理などを行った他、「桜の名所づくり事業」として、カモ類などの多くの渡り鳥が訪れ、全国的にも珍しいオニバスが自生する平の沢公園の散策道である水鳥の道の整備を行った。 「花と緑のまちづくり事業」、「オープンガーデン」として、花と緑の豊かな潤いと安らぎのあるまちづくりの普及・啓発活動のための「2018花と緑のフェスティバル」や、個人の庭をオープンガーデンとして公開し、市民がその庭を訪れる「オープンガーデン2018」事業を行った。 「かめおか桜守認定制度」として、市の木である桜を適切に維持管理し、積極的に守り育てるために、意欲的に桜づくりに取り組んでいただけの方を市民から募集し、桜守として必要な桜に関する知識・管理技術を習得いただくことを目的に、「かめおか桜守養成講習会」の委託事業を行った。 また、平成29年度に策定した「亀岡まるごと・ガーデン・ミュージアム」構想を、広く市民へ普及啓発を図る目的で、平成30年5月13日に市民公開フォーラムを開催した。						
取組の成果	「ウェルカムガーデン整備事業」「桜の名所づくり事業」については、市外から亀岡を訪れる方へのおもてなしの心を表し亀岡の魅力を体感いただくとともに、市民協働によるスポットガーデンの維持管理により、亀岡への郷土愛の醸成を図った。 「花と緑のまちづくり事業」については、イベントの開催を通じて、都市緑化の普及啓発や花と緑の豊かな潤いと安らぎのあるまちづくりの推進に繋げ、「オープンガーデン」については、市民が公開された庭を訪れ、市民参加の花と緑のまちづくりの推進の取り組みを行ない、にぎわいの創出やガーデンシティの実現に繋がった。 「桜守認定制度」については、桜に関する優れた知識・管理技術を保持(習得)する「かめおか桜守」の認定に向けた養成講習会を実施し、28名の方を「かめおか桜守」として認定し、市民の協働による花と緑のまちづくりの推進に繋がった。 市民公開フォーラムについては参加者88名が、構想策定を担当した研究者等の講話を聴講し、またアンケートにて多数意見を提出するなど、普及啓発に寄与した。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値(H31.3)	実績値(H31.3)	達成／不達成	評価(A～C)	事業の今後について
	KPI①	亀岡市の転出入の増減幅縮小(直近5年間合計)	△1,475人 (転出が転入を1,475人超過)	△2,064人	不達成	【B: 地方創生に効果があった。】 現時点で転出・転入数に効果は現れていないが、亀岡市を訪れる人を示すにぎわい人口は増加しており、今後の展開に向けて一定の効果はあった。	【事業を継続】 良好な景観形成、地域活性化、観光振興、環境保全など、多様な効果が見込まれるため、継続して実施する。
	KPI②	にぎわい人口を600万人にする。	5,824,000人	5,917,916人	達成		
	KPI③	市民及び来訪者アンケートによる亀岡市での居住意向人数	525人	集計中	不明		
	参考	移住相談件数	—	286人	—		
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)							

事業の取組、成果に関する写真等



ウェルカムガーデン整備事業
(市道安町雑水川線スポット緑地)



水鳥の道整備
(照明設備)



2018花と緑のフェスティバル



オープンガーデン2018



桜守認定制度



市民公開フォーラム

令和元年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成30年度実施事業)

事業No.3

事業の名称 (活用した交付金)	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業 (地方創生推進交付金)	事業期間	平成28～ 令和2年度	事業費(補助率)	66,807,626円(1/2補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	京都府 (京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、八幡市、長岡京市、木津川市、井手町、宇治田原町、京丹波町、南丹市、綾部市、精華町、南山城村、和束町、久御山町、京田辺市、福知山市、笠置町)						
事業担当課	生涯学習部文化・スポーツ課、市民力推進課、産業観光部商工観光課、光秀大河推進課、農林振興課、文化資料館						
事業概要	ワールドベストシティランキングで2年連続1位に輝いた京都市に訪れる国内外の観光客を、京都府全域への周遊へつなげていくため、国際観光都市「京都市」、北部の「海」、中部の「森」、南部の「お茶」という地域ブランドの下にそれぞれDMOを設立し、圏域内の観光・交流・集客等に関する事業を一元的・総合的に実施できる体制整備を進めるとともに、各DMO間の周遊性の向上による観光滞在時間の長期化と観光消費額の増加を図り、観光産業が地域経済を循環させる社会の実現を目指す。						
取組内容	「観光プロモーション・基盤整備事業」として、JR亀岡駅観光案内所及びトロッコ亀岡駅観光案内所における英語観光案内対応事業、トロッコ嵯峨駅におけるデジタルサイネージを活用した観光PR事業、築約100年の町家を活用した城下町観光案内所事業、本市観光マスコットキャラクターを活用した観光キャンペーンや各種イベントへの参加を実施した他、亀岡市ゆかりの戦国武将・明智光秀が主人公の2020年大河ドラマ「麒麟がくる」の放送が決定したことを受け、亀岡が明智光秀ゆかりのまちであることを知ってもらい、まちの活性化、観光振興を図るため、PR広報物(横断幕、幟、懸垂幕)や「京都・亀岡 明智光秀マップ」を作成し、市内各所に設置した。 「食農・観光等連携事業」として、亀岡産野菜等のブランド化を図り、農業者の所得向上と地域農業の活性化を図った。具体的には大学と連携した「亀岡カーボンマイナスプロジェクト」として、大学と協力し、川東小学校や南丹高校との連携授業を行い、引き続きソーラーパネル下での作物生育試験、新たなブランド作物の販路開拓に向けた検討を行った。また、多くの人に「食」と「農」について理解を深めてもらい、地産地消をますます推進できるように「かめおか農業塾」や「アグリフェスタ2018」、また「肉フェスタ2018」等の開催、「ふるさと料理塾」による亀岡の「行事食」の周知の他、新たな取組として、亀岡牛のと畜頭数の増加による安定供給体制の強化を推進し、更なるブランド振興と消費拡大を図っていくため、流通基盤である亀岡市食肉センターに対して支援を行った。その他、安全・安心な農産物を消費者に提供できるよう、農薬や化学肥料の低減による環境に配慮した農業への支援を進め、亀岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、農業の根幹となる土づくりを通じて集落営農活動を促進した。また、水田農業の将来を見据えた施策として、土地利用型農業による小豆の産地拡大、生産振興を図った他、京のブランド商品の丹波くりの産地育成や、市内直売所の体制強化の助成などを行った。 「にぎわい誘客事業」として、明智光秀ゆかりの城下町を散策しながら協賛店でお得に食事、土産等を購入できる「宝さがしゲーム」、「亀岡祭」山鉾行事に合わせて城下町における街角ギャラリー等のにぎわい創出事業を実施した。また、京都サンガ応援商店街づくり支援事業を実施し、京都スタジアム建設を見据えてサンガ応援商店街を亀岡市内外にアピールし、集客の強化を図った他、魅力ある商店街等のにぎわい創出事業として第12回亀山城下ひなまつり事業を実施し、地域の活性化、新たなふれあいの創出等を図った。その他、第4回京都亀岡ハーフマソン大会への補助や、文化資料館においては通年の常設展に加え、第64回企画展「かめおかを巡る-巡礼札所からファインダー聖地まで-」、第65回企画展「光秀伝説-丹波興敗略記の世界-」を開催し、亀岡のPRを図った。 その他の事業として、森の京都地域の連携とネットワークの強化を図り、観光地域づくり等の推進による交流人口の拡大等を図る(一社)森の京都地域振興社(森の京都DMO)の分担金を支出し、地域全体の活性化に資する事業を展開した。また、JR4駅に隣接する駐輪場を活用したレンタサイクル事業を実施し点在する観光資源のネットワーク化を図った他、ハイキングコース等の整備やききょうの里等における草刈り等の観光地の環境整備・美化を実施した。						
取組の成果	「観光プロモーション・基盤整備事業」については、JR亀岡駅及びトロッコ亀岡駅の観光案内所に英語のできるスタッフを常駐させ、求められる情報・サービスを適切に提供し、外国人を含めた観光入込客、外国人宿泊者数の増につなげた。また、三大観光のほか、霧のテラスや森のステーションかめおか等ここにしかない観光資源のPR、また、世界的観光都市である京都市からJR快速でわずか20分という認識を広めるため、広域的なプロモーション等を実施し、観光入込客及び観光消費額の増につなげた他、「明智光秀公のまち」のPRにより、明智光秀に対する市民の認知度・意識が高揚し、光秀ゆかりの地を巡る観光客が増加した。 「食農・観光等連携事業」については、「地域ふれあいサイエンスフェスタ」への出展や、教育機関との連携により、農業振興や環境保全を市内外の人に意識してもらう機会となった。龍谷大学においては、政策学部のPBL(問題解決型学習)科目の一つとして、地域における調査研究や政策実践を行い、協働社会づくりに必要な人材育成を実施することができた。また、「かめおか農業塾」は計8回で延べ83人の参加があり、安全・安心な農産物を自分で栽培する体験の機会提供につながった。「アグリフェスタ2018」には、約5,000人、「肉フェスタ2018」には約3,000人の来場があり、亀岡産農畜産物や加工品を食し、農業体験を通じて、「食」と「農」の理解促進、また「地産地消」の意識づけについて、一定の成果があった。その他、安全・安心な農産物を提供するため、亀岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、集落営農活動を推進する農家に対し、助成を行い、環境にやさしい循環型農業への取り組みに貢献した。特産品振興については、131戸、73.0haの小豆が生産販売され、京都丹波ブランドの特産品である馬路大納言、丹波大納言小豆の生産の拡大や品質の向上、丹波くりにおいては、剪定研修会などによる技術向上及び情報波及により、例年と比べ3Lを中心とする果実の出荷割合が高まるなど、京都・丹波・亀岡ブランド推進とその魅力づくりによる地域の活性化を図ることができ、亀岡牛についてはと畜数が557頭から580頭に増加し、2020年度に義務化が予定されている衛生管理手法であるHACCPへの対応を進めた。 「にぎわい誘客事業」については、にぎわいの創出を目指し関連団体等と協働で本市の歴史・文化に触れる取り組み、地域の特産品等をPRする取り組みを実施し、12月に開催した第4回京都亀岡ハーフマソン大会では約9,000人の来場者(選手3,822人)で盛り上がった。また、京都サンガ応援商店街づくり支援事業では京都サンガの試合に合わせたPRや、2月に京都サンガ2019シーズン壮行会を実施し、商店街同士の連携や商工振興を図ることができた。亀山城下ひなまつり事業では市内の各個店や城下町在住者宅計42か所において所蔵のおひなさまを飾って公開し、スタンプラリー、抽選会、着物着付けサービスなどを実施することで、滞在時間の延長、観光消費額の増につなげた。文化資料館においても常設展、企画展及び特別展で亀岡の歴史・文化を展示紹介することで、亀岡のにぎわい創出・魅力発信につながり、特に大河ドラマ放映に向けて明智光秀と亀岡のゆかりなどをアピールすることができた。 その他、地域の多様な事業者が参画する(一社)森の京都地域振興社による事業実施により、各地域の取り組みを横断的に調整し、地域資源のブラッシュアップ、地域の魅力発信、知名度の向上等を図り、地域全体で観光誘客等を推進する基礎を構築した。また、点在する観光資源や交通拠点を結ぶ「かめまる観光レンタサイクル」事業の実施による滞在時間の延長、観光消費額の増、観光地やハイキングコース等の整備を実施することで、外国人観光客を含めた観光入込客及び観光消費額の増を図った。						
重要業績評価指標(KPI I)の達成状況、評価	内容		指標値(H31.3)	実績値(H31.3)	達成／不達成	評価(A～C)	事業の今後について
	KPI①	観光消費額(京都府)	1兆455.2億円	1兆3701.4億円 (亀岡市75.2億円)	達成	【A: 地方創生に非常に効果があった。】 京都府全域で目標値を概ね達成しており、亀岡市でも指標が概ね伸びているため、広域連携による観光推進として十分な成果があった。	【事業を継続】 当事業は広域連携による5か年の計画であり、観光誘客及び観光消費額増の効果が見込めるため、継続して実施していく。
	KPI②	観光入込客数(京都府)	9249.6万人	8504.7万人 (亀岡市292万人)	不達成		
	KPI③	外国人宿泊者数(京都府)	317.9万人	459.5万人 (亀岡市0.57万人)	達成		
	KPI④						
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)							

令和元年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成30年度実施事業)

事業No.3 別紙

事業の取組、成果に関する写真等



城下町観光案内所



「明智光秀公のまち」PRのぼり



亀岡カーボンマイナスプロジェクト



2018アグリフェスタ



第4回京都亀岡ハーフマラソン大会



京都サンガ2019シーズン壮行会

企画展「かめおかを巡る-巡礼札所
からファインダー聖地まで-」企画展「光秀伝説
-丹波興敗略記の世界-」

ハイキングコース整備事業

令和元年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成30年度実施事業) 事業No.4

事業の名称 (活用した交付金)	森のステーションかめおか (地方創生推進交付金)		事業期間	平成28～ 30年度	事業費(補助率)	14,500,000円(1/2補助)	
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	産業観光部商工観光課						
事業概要	「森の京都」としての取組の効果をより一層高めるため、市街地周辺地域のそれぞれ特徴を有する神前地区[匠ビレッジ、チョロギ村]、西別院町[ドリムトン村(英国村)]、川東地区[レンタサイクル事業等]の3地域を「森のステーション」として位置付け、「森の京都」の新たな入り口としての機能を持たせ、市街地及び隣接する京阪神から来訪者を呼び込み、亀岡市全体に人の流れを創出し、滞在型の事業を展開することで、亀岡市の付加価値を向上させ、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げることを目的とする。 平成28年度に地方創生加速化交付金を活用して亀岡市交流会館に整備した、「匠ビレッジ」を拠点とし、地域資源を活用して砥石の職人の技の伝承及びチョロギなどを使った特産品開発等を行い、地域コミュニティの活性化やにぎわいの創出を図る。						
取組内容	亀岡で上質で多彩な砥石が採れることから「天然砥石の聖地」の発信とともに、様々な「匠の技」を紹介する亀岡市の新たな観光の拠点として、5月にグランドオープンイベントと合わせて施設の認知度向上を目的とした「SHOKUとWAZAのフェスティバル」、11月には「秋のSHOKUとWAZAのフェスティバル」を開催した。 また、匠ビレッジにおいて地域の職人の魅力を体験できるよう、地元作家の作品展示や天然砥石と親和性の高い刃物に関連したイベントを開催した他、実施主体である森のステーションかめおかプロジェクトの構成員であるNPO法人チョロギ村が、「星空観察教室」や「ヨガ教室」の開催に加え、地域の特産物を活用した薬膳レストランを運営した。 上記イベントに加え、交付金が終了する令和元年度からの自走運営に向け、テレビ出演、ラジオ広告、SNS、旅行会社への営業、チラシの配布等のプロモーションを行った。						
取組の成果	グランドオープンイベント及び2回にわたる「SHOKUとWAZAのフェスティバル」に合計3,100名の入場があり、認知度が向上し、匠ビレッジへの来客も増加している。特に、砥石を求めて国内外から訪れており、大型観光バスでの来館もあった。平成31年2月に開催した刀女子を誘客する目的で実施した日本刀に関するイベントでは、特殊なイベントだということでYahoo!ニュースに取り上げられた。その他、新聞等を含めて多くのメディアに取り上げられ、独自の魅力を発信する施設と紹介された。 また、NPO法人チョロギ村が運営する薬膳レストランについては地域の方々を中心に30名近くの方がレストランでスタッフとして登録し、地域活性化の拠点になっている。薬膳御膳が好調で、売り切れる日が多数あり、団体客の来館もあった他、旅行会社や別地域の地域振興に関わる団体からの視察も多数受け入れを行った。 令和元年度からの交付金に頼らない自走運営ができるよう、プロモーションやイベントによる認知度の向上に成果があった。						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値(H31.3)	実績値(H31.3)	達成／不達成	評価(A～C)	事業の今後について
	KPI①	観光消費額	67.74億円	75.30億円	達成	【B:地方創生に効果があった。】 災害の影響等から入場者数は不達成となったが、拠点施設としての森のステーションかめおかの運営は順調で、地方創生に一定の効果があったと言える。	【事業を継続】 三大観光に次ぐ、地域振興とにぎわい創出の拠点施設として、民間団体が主体となって、取組を継続する。
	KPI②	森のステーションかめおか入場者数(神前・西別院・川東地区合計)	160,000人	118,384人	不達成		
	KPI③	匠ビレッジかめおか職人の技展開催事業による職人サポート数	6人	8人	達成		
	KPI④						
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)							

事業の取組、成果に関する写真等



グランドオープンイベント(5月)



Yahoo!ニュース記事



イタリアの旅行会社視察



匠の技展(藍染め)



匠ビレッジイベント(研ぎ体験)



薬膳レストラン